

CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20-3-301

お問合せ電話: +81-45-717-8575

中国の黒鉛電極などについて

(2022年3月)

1. 黒鉛電極

中国では、黒鉛電極価格は3月に入って値上がりが続き、一部の大手メーカーは3月18日より1トン当たり1,000~1,500元(1.88~2.83万円、1元=18.84円で換算、以下同)を値上げすると発表した。これに対し、中小企業の価格はしばらくの間変動がないと見込まれている。

上流のニードルコークス、石油コークスは値上がりしている。

北京オリンピック開催期間中に生産が制限されていた河北省唐山市、山西省、河南省にある下流の鉄鋼メーカーは、3月15日から生産を再開した。また、コロナ蔓延防止対策により輸送費が上昇し、黒鉛電極メーカーの原料調達と製品の出荷に影響が出ている。

黒鉛電極価格の値上がりは、原料価格の上昇、輸送のコスト高、需要の回復などが原因だとみられている。

表 中国の黒鉛電極価格(3月18日現在)

規格	価格		前週比 (%)	前月比 (%)
	人民元 (元/トン)	日本円 (万円/トン)		
UHP600	27,823	52.42	1.9	2.4
UHP450	24,458	46.08	1.9	4.8
HP450	22,927	43.19	2.2	5.0

2. 黒鉛電極の原料

国際原油価格は堅調で、錦州石化、錦西石化などの大手石油コークスメーカーの価格は3月14日より1トン当たり200元(0.38万円)値上がりし、市場の販売価格は6,200元(11.68万円)程度となった。

ニードルコークスは原料価格の上昇と需要高まりを受けて値上がりしている。3月18日現在の石炭系ニードルコークスは1トン当たり11,000~12,500元(20.72~23.55万円)、石油系は11,500~13,000元(21.67~24.49万円)だった。

3. 鉄鋼メーカー

3月の鉄鋼市況は下流の一部の建設工事などが資金不足やコロナ感染拡大防止などで工事延期となったため、鉄鋼の需要は低迷し小幅な上下変動を示している。

一方、北京オリンピック・パラリンピック閉幕後、中国の鉄鋼生産量は上昇している。ICCの統計によると、3月18日現在、鉄鋼メーカー135社の電気炉稼働率は53.28%で、高炉稼働率も80%以上となった。

CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20-3-301

お問合せ電話: +81-45-717-8575

4. 黒鉛電極市況の見通し

ウクライナ情勢は読めない、原油はしばらく堅調に推移すると予想されるため、黒鉛電極のコスト高は続くとみられている。

中国人民政治協商会議と全国人民代表大会閉幕後、環境保全と安全生産規制が緩和され、建設工事などの再開を受けて鉄鋼の需要は改善している。

コロナの影響が少ない福建省、湖南省などの鉄鋼取引量の回復は著しい。

電気炉生産の増加は黒鉛電極の需要に繋がり、市場は上昇する見込である。

情報源: ICC 資料より整理作成。